

平成22年 阿波おどり期間中の徳島県内の入込客数について

(観光企画課コメント)

今年の徳島市の阿波おどり期間中（8月12日～8月15日）の県内の主要観光施設等の入込客数については、調査対象施設総計で166,118人となり、
昨年の170,060人と比べ2.3%の減少となった。

駐車場利用を含めた全体数を日別にみると、12日～14日は対前年度比で増加しているが、15日のみ減少となった。

また、徳島市の阿波おどりについては、135万人の人出となり、昨年と比べて1万人の減少となった。（阿波おどり実行委員会発表）

県東部の観光施設のうち、徳島市周辺では、天候には恵まれたものの、7月からの猛暑が継続していることなどもあり、「とくしま動物園」、「あすたむらんど徳島」、「神山森林公園」といった屋外型施設で減少となった。

一方、屋内型施設である「阿波おどり会館」、「阿波十郎兵衛屋敷」「藍の館」においては増加している。

鳴門地域においても、屋内型施設の「大鳴門橋架橋記念館エディ」、「大塚国際美術館」、「ドイツ館」で増加している。

県西部の観光施設では、本年4月にリニューアルオープンした「妖怪屋敷・石の博物館」が大幅に増加するとともに、「吉野川ハイウェイオアシス」の利用者も増加したが、屋外型の「うだつの町並み」、「祖谷のかずら橋」で減少している。

県南部の観光施設では、NHK連続テレビ小説「ウェルかめ」の効果が持続しており、うみがめ博物館「カレッタ」で増加している。

なお、海中観光船「ブルーマリン」については、8月12日に台風の接近により欠航したため、利用者が減少している。

今回の調査において、全体としての入込客数が昨年に比べ減少した要因は、次のように考えている。

- 1 天候に恵まれた一方で、猛暑が続く屋外施設が敬遠され、利用者が軒並み減少したこと。
- 2 期間の最終日が日曜日であったため、帰省ラッシュを回避する傾向にあったこと。
- 3 高速道路の料金割引の適用日が土日だけとなり、昨年と比較して対象日が1日少なかったこと。